



TITLE:

支那の日貨排斥運動

AUTHOR(S):

戸田, 海市

CITATION:

戸田, 海市. 支那の日貨排斥運動. 經濟論叢 1920, 10(2): 270-292

ISSUE DATE:

1920-02-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127622>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號二第 卷十第

行發日一月二年九正大

論 說

資本論に見はれたる唯物史觀……………法學博士 河 上 肇

社會的租稅政策の根本理論……………法學博士 小川 郷太郎

鎌倉時代の家族制度(一)……………文學博士 三浦 周行

消費稅が生産者に及ぼす影響の社會政策的考察……………法學博士 神戶 正雄

植民地の土地政策(二、完)……………法學博士 山本美越乃

交通の意義と交通論の問題……………法學士 小島昌太郎

時事問題

支那の日貨排斥運動……………法學博士 戸田 海市

雜 錄

手形交換所制度論(二)……………法學士 大森 研造

絹に關する外國語……………法學博士 財部 靜治

岡山藩の開墾策(一)……………黑 正 巖

時事問題

支那の日貨排斥運動

戸田 海市

一 其の經濟的意義

昨年五月以來支那の青年が中心となつて頗る整頓せる組織に由り頑強なる日貨排斥運動を行ひつゝある。此運動たるや固より彼我通商條約の精神を蹂躪するものであるか、之を行ひつゝある支那青年は國交斷絶を主張し、特に戦争以來彼我の間に成立せる諸般の條約を以て、或は脅迫に由りて利權を獲得し、或は腐敗せる當局を誘惑して借款を締結せる不正のものとなし、全然之を廢棄すべきことを主張しつゝあるから、彼等の排貨運動か通商條約の違反となると云ふか如き批難は、彼等の耳には何等の反響を生しない。元來此排貨運動の中心的目的は政治方面に存するか、其運動の性質が經濟に直接關係を有するものであるから、先づ其の經濟上の影響特に彼我貿易上の影響より研究を初める

日貨排斥の盛んとなつた昨年下半年の我對支貿易高を其上半季に比較し、又之を昨年下半年に比較すれば、共に幾分の減少を示して居る。此減少の大なる部分か排貨運動の影響であることは何人も疑はないか、併し其影響の程度を明かにすることは困難である。歐洲諸國か物價騰貴に苦しめりと云ふも、其貨幣か國際的に著しく價值を減して居るから、貿易上より見れば必しも其物價は高くない。只た此等諸國は物資に缺乏し又信用か缺乏せる爲め輸出入共に不振に陥つて居るのである。然るに我國に於ては國內の物價暴騰か益甚しくなつて、其程度は英米を超越せる上に、我貨幣の國際的價值か維持せられて居るから、貿易上より見て我國は世界に於ける物價最高の國である。故に戰時中急段に膨脹した我輸出か減退することは當然である。現に支那以外の諸國に對する輸出も、生糸の如き特別のものを除きては一般に減退の勢を呈して居る。故に一般の輸出減退の程度以上に對支輸出の減少した程度を以て其排貨運動の影響と見ることも出来るやうであるか、併し排貨運動起つて以來銀相場の著しく騰貴したこと、我國か對支輸出上重要な地位を占むる綿糸の輸出を制限したことを考量すれば、此の如く判斷することも困難である。銀相場の騰貴は無論支那の購買力を増加するものであるか、一面に其騰貴は世界に於ける銀の缺乏より來り、從つて戰爭中既に巨額の銀を失ふて困難せる支那の金融界は、銀相場の騰貴と共に益其金融上の困難を高め、之か爲めに著しく其購買力を毀けられた。銀の騰貴に由る支那の購買力の増

加の程度と、其金融上の困難に由る購買力の減少の程度とか如何なる關係に立つて居るか、不明であるから、排貨の影響も不明とならざるを得ない。而して支那の排日運動は獨り日貨の輸入を妨害するのみならず、幾分は支那の對日輸出をも妨害せんとしつゝあるか、其實際の影響は是亦輸入の場合と同じく精確に測定するを得ない。又排日運動は單に貿易の上に止まらず、更に借款投資の上にも及して居るか、併し休戰以來我政府は借款中止の方針を採れる上に、銀相場の前途不安の爲め民間の對支起業投資も妨けられて居るから、此方面に於ける排日の影響も精確には斷定し難い。要するに貿易及投資の減少を以て盡く之を排日運動の影響と見ることは出来ない。従つて此影響は世人の信するよりも小なるものであるか、併し此運動の爲めに新規の取引が益困難となりつゝあるから、其結果は更に後日に現はれて來ることを豫期せねばならぬ。

支那が經濟上の手段に由り排日運動を行はんとすれば、成るべく日本を苦しむること大なると同時に、支那に取つては成るべく苦痛少なく又出來得べくんは支那を利益する方法を採らねばならぬ。然らば其運動が我國に如何なる苦痛を與へたかと云ふに、其運動の極めて頑強であり又組織的であるに係はらず、我經濟界は依然として好景氣を呈し、支那貿易に關係する一部分の者就中支那に在住する邦商は頗る打撃を受けて居るか、一般經濟界は殆んど排貨運動の存在を感知せざるか如き有様である。是れ此排貨運動の起れる時機が我國を苦しむるに不適當なりしのみ

ならず、我國の經濟界が戰爭に由り大に面目を改め、多大の抵抗力を生じた爲めである。先づ後の點より述べんに、我國の經濟は此戰爭に際して量と質との兩方面に發展した。世人は通例其量の方面に多く注目するのであるが、貨幣價值の下落を差引きて見れば量の膨脹は世人の想像するが如く著しきものではない。戰爭に由り歐米品の内外市場に於ける杜絶に乘し、我工業が其空地を填充する爲めに發展したのは寧ろ質の變化向上の上に多く現はれて居る。即ち我工業生産物の品質が甚だ複雑となり、且つ加工精製の度を進めて來た、此質的變化の結果として我輸出工業品の販路が戰前の如く支那のみに多く寄偏せず、世界各地に販路を擴張し得ることとなり、又支那が日貨排斥に由て自ら生産し得るか如き低級品に寄偏せず、是非とも我國より供給を仰かざるを得るか如き高級品が増加することゝなつた。戰前に支那が排貨運動を行へば我經濟界をして色を失はしめるの有様であつたか、貿易相手と貿易品との複雑となつた今後に於ては、支那が排貨に由て甚しく我國を苦しむることも困難となつた。

次に今回の排貨運動は我國を苦しむるに甚だ不適當な時機に起つたことに注意せねばならぬ。我國が戰爭中巨額の輸出超過を爲したのは、國民が大に生産を増加して而も自から消費する割合を夫れほど増加せず、諸外國に之を貸付けたのであつて、此貸付の大なる部分は今後輸入超過に由て償却せらるべきものであり、従つて我國は今後輸入超過に由て國民の消費を増加すると同時

に其貯蓄をも増加し得る地位に在る。其貯蓄の増加は貿易の上に於ては主に機械及原料の輸入の増加となり、其消費の増加は主に勞働者及地方農民の所得の増加に由る。國內市場の購買力の増加となつて現はれる。今日我産業は輸出に向ふよりも概ね内地市場に向ふことを有利とする。現に我國の生産は國內の需用増加に伴ひ難くして物價の騰貴を生じつゝあり、此際外國市場か我國より購買せんとするも、國民は輸出制限を行ふて外國の要求を拒絶すべしと主張し、之か爲め對支輸出の中に重要な地位を占むる綿絲の輸出制限か行はるゝに至つた有様である。故に排貨運動より起る局部的打撃は如何に甚深なるも、之に由て我經濟界全體を苦しめることは不能である。更に注意すべきは戰後文明國を通して社會的不安か起り、其産業の恢復か遅々として進まず、之か爲め支那は歐米の商品と資本とを誘ひ來つて、日本の支那に對する貿易と投資を脅かすことか甚た困難となつて居る。歐米人か支那の排日運動を或程度に援助して居ることは事實であらうか、彼等の援助も日本の商品と資本とに代はるべき自國の商品と資本とを豊富に持來つて支那の極度の缺乏を充たし得ない今日に於ては、主に精神的援助を爲し得るに過ぎない、現に支那の缺乏を感ずること甚しき貨物に付ては、我國の生産物か外觀を變化し又取引の徑路を變化して支那に輸出せられ、中には近時益輸出高の増加を示すものもあるか、此の如き無意味なる外觀の變化と取引徑路の變化との爲めに要する多大の費用は、支那消費者か自から高價を拂ふことに由て之を負

擔せねはならぬ。過去の日貨排斥運動に於けると同じく、今回も歐米商人にして一面に日貨排斥を煽動し、他面私かに日貨を買入れて之を自國商品に變形し、之を支那に高價に賣付けて不當の利益を得つゝある者が少なくないやうである。我國は戰爭中の輸出超過の結果として今後尙ほ國內市場の購買力が俄かに減退するの危険少なきのみならず、歐米の經濟界の恢復は短日月の間に行はれ難い。故に支那か今後尙ほ頑強に排貨運動を繼續するとしても、我國を苦しむことは當分困難であり、寧ろ支那自身の苦痛が大となつて排貨運動を停止するの已むを得ざるに至るであらう。此の如く支那か日貨排斥に由て我國を苦しめんとするの目的は殆んど失敗に了つたのであるか、此點に關し排貨運動に熱中せる支那青年は大なる誤解を有して居る。元來支那人一般の彼我經濟關係に對する思想を見るに、日本は天然資源を有せざる小島國であつて、其生存に必要とする原料も食物も支那に仰かざるを得ざると同時に、其製品も支那に販路を得されは成立し得ざる地位に立つて居る。是れ日人か常に日支共存を口にする所以である。故に支那が大に決心して半年か、永くて一年も經濟的排日を行へば、日本は忽ちに生存を危ふせらるゝに至るへしと云ふのである。成るほど吾人は何れの外國よりも先つ支那に天然資源を仰き、又我製品の販路をも支那に求むることを希望する者であるか、併し現實の支那は總ての好條件を有するに係はらず、我國の必要とする食物原料を充分に供給するの力も無ければ、我製品を充分に購買するの力もない。

支那の農業は無限に發達するの可能を有するに係はらず、其保守的鎖國策の爲めに發達を妨けられて自國の需用を充たすことさへ出來ず、米や綿に付ては我國と同しく之を英佛領印度に仰いて居る。支那の石炭埋藏量は米國以上に巨額のものと思像せらるゝに係はらず、今日尙我國より之を輸入して工業交通等を維持するの必要を感じつゝある有様である。支那が如何に莫大の天然資源を有するも、國民が其開發の爲め大に努力するにあらざれば、獨り他國に對して勢力を得る能はざるのみならず、自國の生存の爲めにも不足を感じて外國に依頼せざるを得ない。由來支那人の間には其天然資源の大なるを恃み、之を閉鎖獨占することに由り自國の強大を圖らんとするの思想が強い。是れ恰も白人諸國が廣大の未開地を占領して有色人を排斥すると同しく帝國主義の消極的の實行であつて、今回の排貨運動にも亦此鎖國的思想が強く現はれて居るやうであるか、此思想は後に論するか如く支那の青年が排日と共に努力しつゝある對內的改造事業を自殺的運命に陥らしむるものである。

支那が經濟上の排日運動を行ふに付ては自國に取つて最も損害を少なくし、又出來得べくんは自國を利する方法を採らねばならぬ。一般商工業者が自發的に排貨運動を行ふ場合にも此事は必要であるか、從來の排貨運動と同しく今回の運動も青年學生が中心となつて之を商人に強制せんとするのであるから此事が特に必要となる。先づ消極的に支那の苦痛を少なくする方法とし

ては、支那の生産物の對日輸出に多く干渉せずして日本品輸入の防遏に重きを置き、又其輸入品の中にも支那の産業維持に必要とする原料機械等には多く干渉せずして全製品の防遏に全力を注ぎつゝある。最も此事は必しも一般の排貨運動者か意識的に實行して居るのてなく、排貨運動の目的物として取扱ひ易きものか普通の小賣商店に陳列せられ、且つ其の日本品たることの一般人に識別し易き全製品である爲めてもあらうか、若し排貨運動を強て其他の方面にも及ぼさんとするときは、利害關係上より其實行か不能となるを免れない

次に排貨運動を有効に行はんとすれば積極的に其運動をして支那の經濟上の利益を保護するの手段たらしむることを必要とするか、之か爲めには日貨排斥に由て支那の國產獎勵の結果を生ぜしむることを要する。予輩は曾て袁世凱の時代に日貨排斥の行はれた際に、支那の工業勃興の機運の熟しつゝあるに係はらず、交通金融教育等の對内策も保護關稅引上の對外策も實行か困難であるから、今後の支那に於ては外貨排斥運動か國產獎勵方法として次第に重要視せらるゝの危險あることを本誌に論じたのであるか、今回の運動に於ては此點か著しく現はれて居る。支那學生の今回の運動か各地の商業會議所と聯合の形式に於て行はれつゝあることは、必しも商界の積極的要求に出づるものではないとしても、支那の實業界なるものか從來の如く單に商業のみに由て代表せられず、工業的分子の次第に重きを爲しつゝある事實を示すものと見ることも出来る。純然た

る商人は商業取引を妨ぐる排貨運動に由て損害を蒙むるの外はないか、工業家は日貨排斥に由り自己の工業を保護することを利益とする。今次の大戦争は一般後進國に工業的發展の機會を與へ、支那に於ても簡易の工業が著しく進歩するに至つたから、今回の排貨運動に於て國貨提唱の特に高調せらるゝことは怪むに足らぬ

平時に於ては支那か日貨を排斥すれば歐米品か或程度に其代りとして支那に侵入し、從つて支那か排貨に由て國產獎勵を行ふことを妨けられるか、今回は歐米にも工業品輸出の餘力か少ない。故に今回の排貨運動は前に述べし如く日本を苦しめる爲めには不適當の時機に起つたと云へるか、支那の國產獎勵の爲めには好時機に起つたと云へるやうである。併し乍ら歐洲戦争の爲めに支那か工業經營に必要とする資本を外國より得ることか困難となつたのみならず、銀相場の騰貴よりして支那は巨額の銀を海外に送り出すの已むを得ざるに至り、其結果支那の金融界は極度の逼迫に陥つて微々たる事業を起すにも資本の缺乏に苦しまざるを得ざる有様となつて居る。又今日事業を起すに必要な機械、就中支那か我國と共に最も必要とする紡績機械を外國より輸入することか困難であるから、此際排貨に由て國產獎勵の結果を生ずることか頗る困難である。元來國產獎勵の方法として彼の關稅制度や金融交通教育の改善と異り、民間に勃興せる排貨運動なるものは嚴正に勵行し得るものでなく、又何時まで繼續し得るやの測られるものであるから、

之に依頼して新たに重大の事業を起すことは出来ない。只た既に成立せる事業や極めて簡易に新設し得る事業に付て發展の機會を與ふるに過ぎない。加之此運動の爲めに商取引が一般に不安となり、特に商人は不當に財産を沒收せられ又營業の停止を餘義なくせられ、又學生の排貨運動が比較的に規律立つて居るとは云へ、多數の無賴漢が其間に交つて脅迫強奪を逞うし、排貨運動が何時土匪兵匪の掠奪の如き状態となるやも測り難く、之か爲めに支那の一般經濟界は戦々競々として萎縮退嬰に傾き、一般消費者は工業品缺乏の爲めに非常の苦痛を蒙りつゝある。支那の經濟の不振の根原は國內の秩序が整はず生命財産の安固を缺くことであるか、排貨運動も戦争一揆と同じく秩序を紊亂して一般經濟を不振に陥らしむるものである。此大弊害は到底一面に於ける些々たる國產獎勵の結果に由て償ふことを得ない

以上に由て見れば支那の排貨運動は經濟上支那を利用するよりも日本を苦むる方法として意義を有し得るに過ぎないものであるか、今回の運動は日本を苦しむる効果が甚だ少なきに反し、支那の損害は甚だ大である。經濟上より見れば支那人は自から其墓を堀る者である。併し乍ら日本の蒙むる苦痛が少なしとて吾々は反省せずして可なりと云ふのではない。予輩は寧ろ支那の運動が微力なる爲我國民の反省を迫るの效果なきことを悲しむ者である。戦争以來予輩が繰返して本誌上に主張したる如く、世界の諸強國が如何なる對外策を採るを問はず、我國は積極的の又支那は

消極的の帝國主義を抛つて眞に平和の共同生活を營むと同時に、兩國相提携して少くとも東洋の天地には諸強國の帝國主義の侵入し來ることを防止し、之に由て兩國の福利を増進すると同時に、兩國各自に其國內に於ける政治的社會的の改造事業に努力せねばならぬ

二 其政治的意義

支那の日貨排斥運動の中心的意義は政治上に存するのであるか、其の政治的意義にも二種ある。此運動は直接には日本を屈服せしめんとする對外政治上の目的を有するものであるか、同時に此運動が對内政治上の意義を有し、不幸なる今日の時局を産み出したる政府當局に對する國民の不信任運動となつて居る。此對内的意義は運動の初めより強く意識せられたのではないか、時日の經過するに従つて其意識が強まり、外交に關する國家の大事件を無能なる當局に一任せず、國民自から起つて之か解決に努力せんとすると同時に無能なる政府の干渉を排斥するのみならず、此の如き政府の存在自身をも否認せんとするの意氣を生して來るのである。由來政爭の激烈なる支那に於ては從來より外交問題か内爭の具に供せらるゝを常としたが、今回の運動に於ては割據的の軍閥や職業的政客の葛藤の意義は割合に少なく、寧ろ此等一切の政治的專制者に對する民衆の反抗の意義が強く現はれて居る。支那の青年が排貨運動を行ふに付ては外、日本に對して通

商條約を蹂躪するのみならず、内に在ては生命財産や交通取引の安全を保護する所の政府の權威に反抗し、直接行動的に日貨の取引を妨げ、更に進んで日貨を押収して之を燒棄すると云ふか如き秩序破壊の反亂的行動を採つて自國の政府と戦ひつゝある。排貨運動か同時に此二種の政治的意義を有し、特に其内政的意義は支那の傳統的內争と異れる新意義のものであることは注意すべき點であり、支那の改造の上より見れば其對內的意義か甚だ重要なものである。試みに我國の過去の歴史に顧るも、政府の専制と腐敗に對する輿論の攻撃は、政府の外交上の失敗を機會として最も自由に激烈に爆發するを常とした。本來外國の侵略的なる帝國主義即ち國際専制主義に對して自國の自由獨立を擁護せんとするの精神と、自國に於ける少數階級の専制に對して民衆の自由を擁護せんとするの精神とか共通の性質を有するものであるから、民衆の對外運動か同時に自國の攻撃の意義を以て行はれる場合のあることは怪むを要しない。特に手段の上より見れば自國の専制政治を攻撃するに付き、政府か外交上の失敗を演じた場合に之を攻撃することか、國民一般を興奮せしむるに最も有效である。實際今日の支那青年の排日運動の前には支那の軍閥も警察も殆んど權威を失ひ、青年の代表する國民的輿論の力か從來の總ての専制的權威をして顔色を失はしむるの形勢を示しつつある。

我國より支那政府に對して其學生の排日運動の取締を警告せるに對し、支那政府か充分の取締

を行はないと云ふ事實を見て、我國では一に之を支那政府に誠意がなく、内心は學生と同じく排日に傾いて居る證據であると結論するやうであるか、是は一面觀たるを免れない。支那の政府當局者も支那人である以上は排日思想を有することは勿論であらうか、併し當局の威信を保つて其地位を安固にする點より云へば、官權を無視して秩序を蹂躪する所の排貨運動を有効に取締ることを欲するに相違ない。特に其取締の行はれるか爲めに國交上の危機を生ずるときは、當局の地位が危くなることも明白であるから、自衛上其取締の必要を感じて居るに相違ない。只た支那に於ても專制政治に對する人民の輿論が次第に有力となり、特に歐洲戰爭に伴ふて支那の一般思想界の動搖や其青年の覺醒が最近著しく進んだ爲めに、舊式の專制者は最早や之に對して充分の威力を振ふことを得ざるに至つたのである。

普通の内政上の運動と異り、對外事件を題目とする今回の運動が南北の別や政派の別に係らず一般に行はれることは自然であるか、今回の運動に對して特に注意すべきことは青年學生が運動の中心となり、假令へ其背後には舊式政治家の煽動や外人の操縱や一部實業家の後援があるとしても、此等の勢力は今回の運動に於ては次第々々に從屬的地位に下り、即ち彼等が學生を利用するよりも寧ろ學生が彼等を利用するの勢となりつゝあることである。戰爭以來支那の思想界も大に動搖し覺醒し、各般の文化運動が盛んとなりつゝあつたが、之を代表する所の支那青年の實

力の増加か今回の排日運動に於て明白に示されたのである。我國は實に新支那を助けて政治的社會的改造を行はしむべきや、又は時勢に反抗して專制的の舊支那を支持すべきやの分岐點に立つて居る。故に我國が如何なる對支政策を採るべきやは、同時に我國内の社會改造にも重大の反響を及ぼさるゝるを得ない。予輩が既に屢本誌に論じた如く今日は最早や各國が對外策と對内策とに付て別々の方針を採り、一種の二重生活を營むことか出來なくなつて來たのであるか、支那の排日問題は我國に取つても對外問題であると同時に大なる對内問題である。

今日世界的に人心を動搖せしめつゝある改造問題は、其根柢に於ては何れも少數の專制に對して民衆が自由を要求するの運動、即ち民衆解放の運動であるが、各國の進歩の程度に従ひて其國に行はるゝ主要の專制の形式に差異がある。政治上の自由の確立せる歐米先進國に於ける專制は主に資本主義と云へる經濟的のものであり、従つて其の必要とする改造は社會的である。我國の如きは政治上の專制が未だ消滅するに至らざる間に經濟上の專制が擡頭するに至り、従つて我國の必要とする改造は同時に政治的社會的の兩面に亘つて居る。經濟の幼稚なる支那に於ては未だ資本主義が別段の發達を爲さざるに反し、政治上の專制は極度に増長し、少數の軍閥や政客が公器を利用して四億の民生を弄ひつゝあるから、其の最も急を要する改造は政治的のものである。支那が政治上の不統一に陥り、國家としての形體すら備へざるに至つたのも畢竟は少數專制の結

果であるから、其統一を成就して秩序を確立せんとすれば、是非とも從來の少數專制を打破せねばならぬ。目下行き惱みつゝある上海の平和會議が幸に效を奏して一時南北の妥協が成立し得るとしても、今日の少數專制が繼續する限りは忽ちにして新なる黨争が起つて再び無秩序不統一に陥るであらう。世間には今尙ほ支那の統一は歴史的に又實勢的に見て武力に由るの外なしと信する者もあるか、假りに今後袁世凱以上の武人が出現して一時統一を行ひ得たとしても、其統一は一單に形式的に止まつて内容の渾沌を如何ともするを得ず、特に久しからずして軍閥内部の分裂に由て形式的にも不統一に陥るを免れないであらう。民衆が進歩して其自由を擁護するの氣勢を示す場合には、少數專制者は自衛の必要より結束を固くし、之が爲め國家の統一が緩和せられたる專制主義の下に成立する見込があるのであるか、支那の民衆の覺醒の程度が尙ほ低き上に、支那の領土が餘りに廣大であつて其間の連絡が困難であるから、之を統一して秩序を立つことは非常の難事である。半世紀前に獨逸が統一の帝國を建設せし際にも、各地方に割據せる專制者の跋扈を抑へて統一の實を擧ぐる爲め、本來專制的傾向の強き帝國建設者も普通選舉の制度を必要としたのであるか、今後支那が統一の國家となるか爲めには、主として北方の力に由ると南方の力に由るかを問はず、少數專制者の力を抑へることを必要とする。之を抑へるか爲めには舊式の軍閥や政黨に對して、覺醒に向ひつゝある全國青年の解放運動を有力ならしむることを必要とする。今、

回の排日運動に於て青年の勢力が頗る増進せし事實を示したことは支那の統一に取つて喜ぶべきことである。苟くも我國にして支那が統一せられ秩序立つことを欲するならば、舊支那に對して新支那を助けねはならぬのであるか、我國の對支外交が從來の帝國主義と云へる國際的專制主義を繼續する限り、我國は到底新支那と提携するを得ない。

支那の思想界に於ては政治的改造の外に社會的改造を主張する者もないではないか其勢力は尙ほ甚だ微弱である。元來社會を改造するには一定不動の型があるのではない。之か改造には先づ政治上の專制を打破し、立憲政體の下に大に資本主義を跋扈せしめ、其弊の堪ゆへからざるに至つて初めて社會的改造に着手することと必要とし又は有利とするとは云はれない。今日の支那は經濟の幼稚な爲め、文明國に於けるか如く資本主義の跋扈は甚しくなつて居らぬか、併し支那は世界最古の歴史を有する國であるから、夙に特種の社會問題が發生し、無數の貧民が發生して常に社會組織を破壊するの道具となつて居ることは、再三本誌に於て論じた如くである。故に支那を改造するには先進國の踏み來つた徑路を辿り、先づ政治方面に全力を注ぎて經濟方面を開却して可なりと云ふを得ないか、併し今日の支那が最も苦しみつゝある專制は政治的のものであるから、先づ之か改造に着手することか自然の順序であり、又新支那の實力は此改造に全力を傾くも尙ほ足らざるを憂ふるほどであつて、同時に社會的改造を斷行するの餘力がない。故に今日の

支那青年の改造運動が主に政治方面に存することは健實の方針を探るものと云はねはならぬのであるか、若しも我國の對支外交方針が飽くまで帝國主義を貫くことであるならば、支那青年の政治的改造運動が絶望的となり、之か爲め彼等の運動は一足飛びに社會的改造に向ふこととなり、其結果支那の社會は今日の露國以上の混沌状態に陷るの危険なしと云ふを得ない。此點は曾て本誌に一言した所であるか、今ま聊か其理由を述べる

我國の帝國主義の支持者たる軍閥は從來支那の北方軍閥の援助に傾いて居たか、兩國軍閥の此接近關係は必然的よりも寧ろ機會的であり、従つて時に由れば正反對に立つ場合もある。現に以前我軍閥は久しく支那の南方革命派を助けて居たこともある。只た我國が支那に對して帝國主義を探る限り、支那は自衛の必要を感じて充分に軍備の裁減を行ふことか出來ず、従つて其の最大專制者たる軍閥の勢力を殺くことも困難である。又我國が帝國主義を探つて支那に蒞む限り、支那人一般就中覺醒しつゝある支那青年は益排日思想を強め、又對内對外兩意義を有する所の排日運動を廢止することも出來ないであらう。然るに排外思想を強むることに由り國民の元氣を振興し、其結束を固くする方法は國民道德上非常に危険なものである。我國民も幕末開國より日露戰爭までの間は、世界諸強國の東方侵略の大勢に抵抗する爲めに強固なる排外思想を生じた。國勢微弱にして受働的地位に立つ間は、排外思想は正義の主張又は生存權の主義以上の内容を有し

得ないのであるか、元來各國民の間には國內各個人の間に於けるか如く道德か進歩せず、對外に利己的なることを以て愛國のなりとして怪まざる有様であるから、正義の主張より出發した排外思想は動すれば利己的の排外思想に陥り易きものである。日露戦争までの我國民も正義の主張の領域を超へて或程度の消極的帝國主義に傾いて居たのであるから、日露戦争に勝利を得て諸強國の壓迫を除き去つた後は忽ち積極的帝國主義に進んだ。正義の主張より出發して階級戦に熱中しつゝある先進國の労働者か、一旦勝利を得たならば今日の資本家に代つて新なる専制者に墮落し、以て社會改造を自殺的運命に陥るゝの危險ありと稱せらるゝも同一の理由によるものである。我國に於ける多くの論者は從來内政に付ては極力軍閥官僚を攻撃するに係はらず、對外的には特に支那に對しては帝國主義を主張するを常とした、予輩は屢此の矛盾の態度を指摘して國民の反省を促かし、其の對外的に帝國主義を主張することか、恰も一面に攻撃しつゝある軍閥に勢力を附與する所以であることを論したのであるか、此事は支那に付て見ても同一である。支那の青年か排日を主張して國民の敵愾心を強むる限り、支那の軍備は裁減が出來ず、從つて軍閥の打破も困難となつて其専制の下に苦しまねばならぬ。而も我國か支那に對して帝國主義を採る限り、支那の青年か排日運動を止めることも出來ないと云ふ窮境に陥らざるを得ない。

我國の思想界や實際界に於て予輩と同一く帝國主義に反對する分子は必しも少なくない。特に

最近に至つて餘ほど勢力を加へつゝあるか、而も尙ほ容易に之を我か實際の政策の上に實現し得ざるは支那の排日態度と列國の帝國主義とである。支那が排日運動に由り國民の敵愾心を強むるときは、本來支那人に固有なる排外鎖國的思想が強まらざるを得ない、支那は世界人類の共同生活に必要な廣大の天然資源を領有して居るか、支那人の排外思想が強まるときは、其天然資源を閉鎖獨占して自から利すると同時に他を苦しめんとするに至るを免れない。是れ前にも述べし如く帝國主義の消極的實行に外ならぬ。天然資源に缺乏せる我國は汎く諸外國より之を求めて生活せんとし、特に之に付ては我國に隣接せる東洋南洋方面の門戶開放を重要視して居る。故に苟くも支那にして此の如く天然資源の閉鎖獨占の傾向を示すときは、我國民は生存權の主張よりして之に對し帝國主義の積極的實行を要求するに至るを免れない。若しも覺醒せる支那人士にして日本の帝國主義を攻撃すると同時に公平に自國の門戶開放をも認容し、又巴里の講和會議に於ても支那が此點を明白に宣言したならば、我國の輿論は夙に一變して居たてあらう。是れ予輩が此講和會議の間際に至り此點に關する從來の卑見を繰返して本誌に論述した所以である。日本の帝國主義も本來自國の生存權の主張より出發して居るものであることは支那人士の一刻も忘れてはならぬ點である。又國際競争の激烈なる今日に於て支那が排日運動を起すときは、諸外國か其間に暗中飛躍を試みることは敢て怪むを要しないか、併し此事が又我國民をして今尙ほ安んじて支

那に對し帝國主義を抛つことを得さらしむる重大原因である。本來我國の大陸發展策なるものは、歐米の帝國主義的勢力の東漸に對する自衛の必要より起つたものであるか、以前の露國や獨逸の如き武力的帝國主義に代つて、今日は米國や英國の資本的帝國主義か支那を以て好個の活動舞臺と爲し、特に支那に在住して其排日運動を助けつゝある歐米人は概ね其本國の資本的帝國主義の機關である。故に支那の青年か不幸にも此等の歐米人と關係を探つて排日運動を爲すときは、我國の輿論は容易に自國の帝國主義の拋棄を決心するを得ない。支那青年の排日運動に歐米人か直接間接に關係を有することは、我國民に對し其運動の道德的權威を失はしむる大原因である。

此等の事情に由り我國か帝國主義を抛つことも出來ず、又從つて支那も排日運動を停止せざるときは、支那の政治的改造か絶望となりて其專制と腐敗とが繼續し、特に從來の如き亡國の借款か行はれて專制者の勢力を増長せしめつゝ、國民の膏血を絞ると同時に外國の侵略的勢力の侵入を助くることゝなるときは、自衛の本能を有する支那の民衆就中覺醒しつゝある支那青年の解放運動か更に險惡化するを免れない、文明世界を振盪しつゝある社會思想の激流は支那にも波及せざるを得ない。特に今日の支那青年は我國よりも一層歐米の崇拜と摸倣とに熱中して居るから、歐米の社會的思想か今後支那に於ても有力となるは避け難き勢であるか、上述の如く支那の青年か絶望的の窮境に陥るときは、之より脱出する方法として一足飛びに社會革命に赴くに至るこ

とか自然の勢であるを見ねはならぬ。支那の經濟は幼稚であるとは云へ、古くより無數の貧民が發生して常に破壊的作用を爲しつゝあるから、今後支那に於て社會革命を起すことは決して不能でない。從來軍閥が專制力を維持するに必要な軍隊を造るにも此貧民に依頼し、又在野黨が一揆革命を起すにも此貧民を材料としたのであるか、今後支那青年が社會革命を起すにも亦此貧民を利用することか出来るのである。支那の解放運動が行き詰つて其思想界が險惡化するときは、過激主義の世界的宣傳に努力しつゝある露國が、大に支那青年の間に宣傳の手腕を振ふことも豫期せねはならぬ。最も世人の論するか如く露國の過激主義が西比利亞を統一して地理的に支那に接近することや、露國過激派政府の軍隊に於て數千の支那苦力が訓練せらつゝあることか、直ちに支那を過激化する重大原因となると云ふことは出来ない。支那の解放運動が行き詰つて思想界が絶望的に險惡となつた場合に、初めて此等の事情が過激化の原因となり得るのである。公器を私用して不淨財の蓄積を事とする所の支那の大官連や政客は、今日の支那財産家中の重要部分を占めて居るから、一足飛ひに社會革命を行ふことか直接に現在の專制者たる大官政客の勢力を打破するに大なる効果のあることは、窮境に陥れる支那青年の容易に觀破し得る所となるであらう。斯くて支那は一足飛ひに社會革命に走るときは、其結果は無論今日の露西亞以上の混沌に陥り、永き暗黒時代を出現することゝなるであらう。露國にも支那と同じく政治上の專制が行は

れ立憲政體は有名無實となつて居たのであるか、併し露國の社會革命の運動は古き歴史を有し、其勞働者階級や大地主の壓迫に苦しめる農民は支那の貧民に比すれば社會的に大なる進歩を呈して居り、又一般露國民は議會の外に地方自治制度や產業組合制度の下に或程度の自治的訓練を與へられて居た。故に目下過激派の露國は事實上少數專制の下に行動しつゝあるか、一旦新制度の下に社會の秩序が立つて來れば當局の專制力は健全なる制限を受け、人民の自由自主が發達するの望かないではない。現に此徵候は諸方面に於て現はれつゝある。然るに一般の支那民衆就中社會革命上重要な任務を爲すへき支那の貧民は露國の勞兵の如き自主の能力と訓練とを缺くから、彼等が社會革命の道具として使用せらるゝ場合に於ても徒らに破壊の作用を逞ふするに止まり、其指導者の專制力の腐敗を防止するか爲めに、之に健全なる制限を加ふることによて新社會を建設するを得ざることは、從來彼等が軍閥や在野政客の道具となつて徒らに破壊作用を爲し、又專勢力を擁護し來つたと多く異らぬであらう

我國は露國の過激派の勢力の東漸を防ぐ爲めに西比利亞に出兵すると云ふ不可解の政策が行はれて居るか、我思想界の動搖は直接に英米と連絡を有するから、兵力に由て我思想界の動搖を防ぐかとすれば英米と戦はねばならぬ。若しも西比利亞の過激化が我國の存立に危険であるならば、更に比較を超絶するほど密接の共存關係を有する支那の過激化することは我國に致命的の危

險であらねはならぬ。又支那の青年の解放運動が前述の如く絶望状態に陥るときは、彼等の努力が排日運動に止まらず、必らずや其手を朝鮮臺灣の擾亂に延はすことを覺悟せねはならぬ。我國の民衆も今や世界の潮流に促されて政治的社會的改造に熱中しつゝあるか、此際支那の排日運動や植民地の反抗運動や、特に政治上經濟上の競争關係より出づる英米等の宣傳運動に由り、我國を以て第二の獨逸なりとし東洋の侵略者なりとせらるゝときは、我民衆の現國家に對する信念に大なる動搖を生じ、其改造運動が非常の危険性を帶ふるに至るを免れない。此等の點より見るも我國が東洋の平和を保ち又自國の存在を安固にする爲めに必要とする所は帝國主義ではなくて徹底的の平和主義でなくてはならぬ。既に述べし如く白人諸國が徹底的の平和主義を採用し、特に人種的民族の偏見を去つて世界人類と平和なる共同生活を營むに至るは前途遼遠であるであらうか、日支兩國は相互に消極的にも積極的にも帝國主義を抛つて平和の共同生活を營み、又互に提携して少くとも白人諸國が極東方面に其帝國主義的政策を實行することに對し斷乎たる抵抗を爲さねはならぬ